

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32663
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：18K02737
研究課題名（和文）大学におけるIRの機能に関するエスノグラフィー - 日本と米国・中国との比較

研究課題名（英文）Ethnography of IR Function in Universities —— A Comparison between Japan, the United States and China

研究代表者
劉文君（LIU, Wenjun）

東洋大学・IR室・教授

研究者番号：80508408
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：IRの機能について主に、日本・中国・アメリカの高等教育の主な動向、とりわけIRに期待した役割およびIR人材育成の取り組みを分析を行った。オンライン及び現地調査を通じて、三カ国の高等教育研究者及びIRの担当者に対して、インタビュー調査を行い、また日本全国IRアンケート調査の結果分析を行い、IRの果たす役割及び直面した課題を明らかにした。日本の大学教育・学生の学修の現状について、「全国学生調査」及び個別大学の学生調査のデータに基づき、学生が受けた授業形態、学修時間などを中心に把握、比較を行った。また大学教育マネジメントにおける全国調査実施の現状とその活用について日・中・米の比較を研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、大学IRの果たす機能について、「教学改革」・「経営支援」・「情報開示」の三つのレベルでのフィードバックのプロセスに焦点を当て、エスノグラフィーを通じて、日本の大学の教育改善とマネジメントにおけるIRの機能と課題を調査、分析を行った。また、米国の経験と中国のIR試行錯誤との国際的な比較を行い、大学IRの果たす機能について新たな学術的な知見を示した。

研究成果の国内外の公表によって、日本型のIRを構築するための政策的提言を導くとともに、国内外大学とのベンチマーキングを通じて、IR研究者の学術国際交流を推進することにも貢献している。

研究成果の概要（英文）：This study mainly analyzes the functions of IR: the main trends of higher education in Japan, China and the United States, especially its expected role in IR and the measures for training IR talents. Through on-line and on-the-spot investigation, we interviewed the researchers and IR leaders of higher education in the three countries, and analyzed the results of the national IR questionnaire survey in Japan, so as to clarify the role and challenges of IR. (3) According to the data of "National Student Survey" and individual university students' surveys, focusing on the course form and study time of students, this paper grasps and compares the study status of Japanese university education students. In addition, a comparative study is made between Japan and the United States on the implementation and application of the national survey on university education management.

研究分野：高等教育学

キーワード：高等教育政策 高等教育マネジメント 教学改革 IR人材育成 日本型IR 学生調査 情報公開 国際比較

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2008年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」をはじめ、一連のIRを促進する施策が採られてきた。IR組織の設置は私学助成の際の基準、国立大学運営交付金の配分基準の一つともなった。日本におけるIRの現状に関する調査によると、IR組織を有する大学は、すでに25%に達している。しかし、大学教育改革におけるIRの果たす機能に大きな期待がかけられる一方で、IRが形式的に導入され、組織として十分に機能せず、様々な困難に直面していることが明らかになった。これらの問題が生じる背景として、IRが様々な大学内外要因の中に置かれ、政策的な位置づけの欠如、大学の組織、運営のあり方、IRを支える人材などの要因が指摘されている。上述の現状を鑑みて、日本の大学におけるIRの現状と果たす役割について理論と実践の両面から包括的に検証することが求められた。

2. 研究の目的

本研究は、大学IRの果たす機能について、「教学改革」・「経営支援」・「情報開示」の三つのレベルでのフィードバックのプロセスに焦点を当て、エスノグラフィーを通じて、日本の大学の教育改善とマネジメントにおけるIRの機能と課題を明らかにすることを狙った。得た知見に基づき、米国の経験と中国のIR試行錯誤との国際的な比較を通じて、日本型のIRを構築するための政策的提言を導くとともに、国内外大学とのベンチマーキングを通じて、IR研究者の学術国際交流を推進することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 質的調査・分析

IR担当者と大学教員・執行役員などの関係者に対して、現地調査及びオンラインでのインタビューを行い、それぞれどのように受容し、相互作用を行っているか、またその結果として、大学の教育改善とマネジメントの向上に働きかけ、あるいは制約となっているのか調査を行いました。

(2) 量的調査・分析

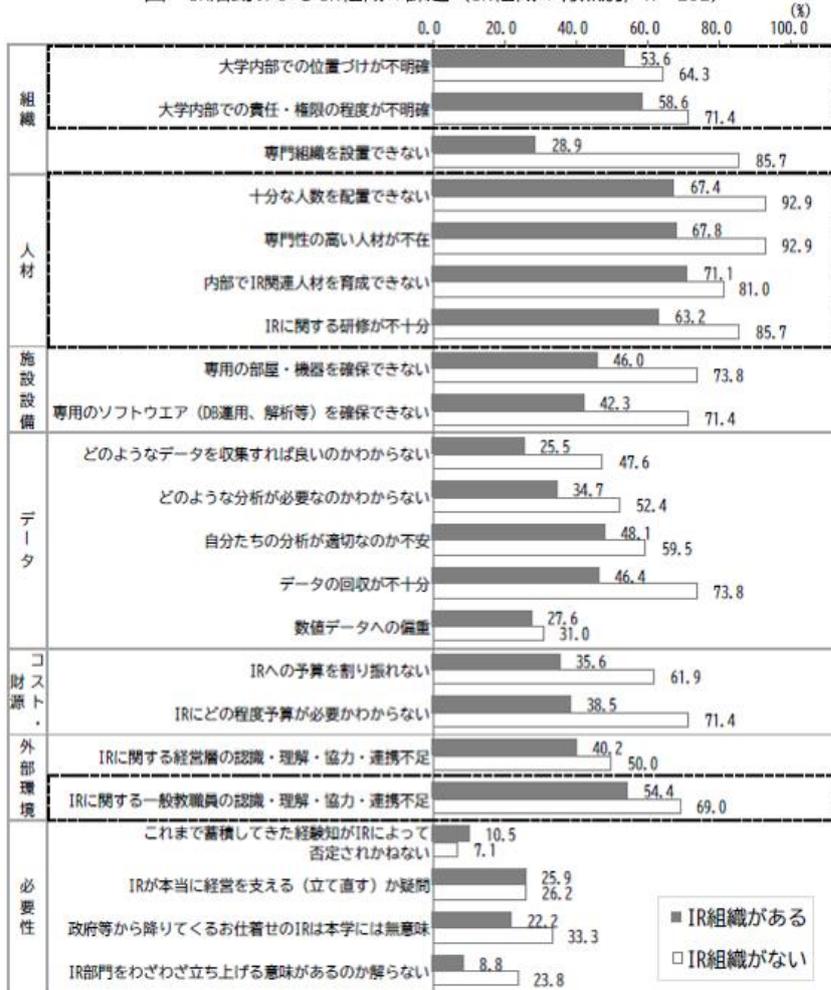
上記質的方法を調査、分析を行うと同時に、問題関心に従い、日本高等教育学会行った全国のIR調査のデータ、及び或いは個別大学のアンケートのデータを用いて、量的な分析を行った。質的な分析と相互補完的な相乗的効果となった。

(3) さらに、上述の分析を行う際に、日本国内の大学だけではなく、米国・中国を中心に外国の大学とのベンチマークを行い、情報公開などのIRに関連する政策の比較研究を行った。

4. 研究成果

第1に、「教学改革」・「経営支援」・「情報開示」に関わる大学IRの果たす機能について、インタビュー調査、及びデータ分析から、共通的な傾向が見られた。すなわち、IRの人材配置及び専門的な人材の不在との量的、質的な欠如は最も大きな問題となっている。IR組織が設置されても、大学内部での位置づけが明確されず、大学内部での責任・権限の不明確、さらに、IRに関する一般教職員や経営層の認識・理解・協力・連携不足などの課題が見られた。これらの問

図 IR活動およびIR組織の課題 (IR組織の有無別, N=282)



題点は、筆者が全国 IR 調査データに分析からも、IR 組織の有無で程度の差があるものの、同じく抱えていることを明らかにした。

第2に、「教学改革」・「経営支援」・「情報開示」のIRに関わる活動を支える「専門性の高い人材が不在」と他のすべての項目と正の有意な相関を見られたが、比較的に相関が高い(相関係数が.4以上)のが表に示す項目である。当然ながら、「内部でIR関連人材を育成できない」など「人材」に関する項目との相関が最も高い。また人材の不足が「自分たちの

分析が適切なか不安」ともつながっていることがしめされている。また注目すべき点として、人材の課題は、学内での位置付けにも強い相関を持っている点である。特に人材の不足が「IRに関する一般教職員の認識・理解・協力・連携不足」と高い相関を示すことは、執行部だけでなく、一般の教職員の理解がなければ、IR組織にも人材を集めることができないことを示している。

表「専門性の高い人材が不在」との相関 (相関係数)

課題	相関係数
人材	
内部でIR関連人材を育成できない	.719**
IRに関する研修が不十分	.664**
十分な人数を配置できない	.589**
データ	
自分たちの分析が適切なか不安	.540**
どのようなデータを収集すれば良いのかわからない	.516**
どのような分析が必要なのかわからない	.511**
外部環境	
IRに関する一般教職員の認識・理解・協力・連携不足	.524**
IRに関する経営層の認識・理解・協力・連携不足	.467**
コスト・財源	
IRにどの程度予算が必要かわからない	.484**
施設設備	
専用のソフトウェア (DB運用、解析等) を確保できない	.464**
専用の部屋・機器を確保できない	.455**
組織	
専門組織を設置できない	.456**
大学内部での位置づけが不明確	.410**
大学内部での責任・権限の程度が不明確	.403**

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

を参照し、IR、学生調査をほぼ同じ時期に導入した中国の現状を調査、比較を行いました。日中のIRに共通的な課題が見られた、同時にお互いに示唆を得るものも少なくないことが明らかである。

第3に、「教学改革」・「経営支援」・「情報開示」に関して、IR主要なツールである学生調査がどのように機能しているかについて、大学が独自実施している各種調査だけではなく、近年文部科学省・国立政策研究所が実施する「全国学生調査」の活用についても調査、分析を行った。学生調査が果たす重要な役割はより認識されつつある状況の中で、上記明らかにしたIRの専門的人材の不足、組織の学内の位置づけの不明確などの問題と関わり、学生調査を十分に分析できず、また学内での理解、浸透にも大きな制約が見られた。

第4に、大学のIRが果たす機能、及びそれを取り巻く大学質保証の在り方について、アメリカ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 劉文君	4. 巻 NO.649
2. 論文標題 「全国調査から見たIRの現状と課題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉文君	4. 巻 No.635
2. 論文標題 コロナ禍の中で学生の学修行動の変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育 コロナ後の大学教育像	6. 最初と最後の頁 34-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉文君	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の大学教学マネジメントとIRの政策・現状	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国高等教育学会「高等教育国際フォーラム論文集」	6. 最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉文君	4. 巻 54
2. 論文標題 留日中国大陸学生对大学教育期待の実証研究 基于与日本学生差異的分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上海経済・貿易大学『高等教育研究』)	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 劉 文君（他）
2. 発表標題 「大学のインスティテューショナル・リサーチに関する調査研究」の第一次報告
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 コロナ禍が中国大卒者の海外進学に与えた影響 エリート大学を中心に
3. 学会等名 日本大学教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 日本の大学院教育のトレンドと示唆
3. 学会等名 第2回「グローバル視野における教育政策」フォーラムおよび上海協力機構師範教育国際学術会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 全国学生調査からみた東洋大学の学生の学びと成長
3. 学会等名 2022年度 東洋大学IRシンポジウム「大学教育改善に「全国学生調査」をどう活かすか 学修者本位の教育の実現を目指して 」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 コロナ禍対策としての中国の高等教育国際交流政策
3. 学会等名 日本大学教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 オンライン授業は学生の学習行動にどのようなインパクトを与えたか
3. 学会等名 日本高等教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 以国際化促進大学治理和教育改革 - 日本SGU計画的的目的及効果
3. 学会等名 中国高等教育学会主催 高等教育国際フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉 文君
2. 発表標題 学生調査からみた東洋大学の夜間部教育の意義
3. 学会等名 東洋大学 I R 室主催 2021年度 東洋大学 I R シンポジウム「リカレント教育の可能性」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 日本的高等教育国際化政策与現状
3. 学会等名 中国海洋大学主催『全球視野中教育政策暨第四届教育經濟与管理研究生論壇』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 授業プラクティスの教育的効果に関する実証研究
3. 学会等名 日本高等教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 日本の大学教学マネジメントとIRの政策・現状
3. 学会等名 中国高等教育学会「高等教育国際フォーラム」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「コロナ禍の中国の大学躍進戦略」
3. 学会等名 日本大学マネジメント研究会サロン(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「二つの学生調査から見た留学生の学修の現状と課題」
3. 学会等名 2020年度 東洋大学IRシンポジウム「留学生の教育と学びを考える」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 学生の学修意欲をいかに高めるか
3. 学会等名 日本高等教育学会第22回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 私立大学におけるIR
3. 学会等名 大学教育学会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 The strategy of Japanese graduate school educational development for 2040
3. 学会等名 中国高等教育学会 2019年高等教育国際フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 高等教育の情報公開と質的保証
3. 学会等名 中国海洋大学 高等教育研究ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 エビデンスに基づく教育改善
3. 学会等名 青島大学 高等教育研究セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 職業能力形成における大学教育の効果 - 卒業時調査からの知見
3. 学会等名 日本高等教育学会第21回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「東洋大学の学生の学修時間 『新入生アンケート』『在校生アンケート』『卒業時 アンケート』による検証」
3. 学会等名 東洋大学 IR室主催 平成30年度 東洋大学 IRシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「留学生と日本人学生の意識の差異 - 新入生アンケートの分析から」
3. 学会等名 東洋大学IR室主催「国際高等教育研究ワークショップ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「IRと大学教育管理」
3. 学会等名 中国海洋大学海外専門家シリーズ招聘講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「日本における高等教育の質向上と情報公開」
3. 学会等名 全国高等教育機関質的モニタリング学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「“ 一帯一路 ” 高等教育教育の質向上とIR」
3. 学会等名 中国海洋大学主催「第三回『一帯一路』 高等教育研究国際フォーラム」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉文君
2. 発表標題 「日本高端創新新人才培養戰略 - 21世紀研究生院政策淺析」
3. 学会等名 中国高等教育学会主催「高等教育研究國際フォーラム」(國際学会)
4. 発表年 2018年

〔圖書〕 計6件

1. 著者名 劉 文君	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋大学	5. 総ページ数 47
3. 書名 「全国学生調査からみた東洋大学の学生の学びと成長」東洋大学2022年度シンポジウム開催報告『「大学教育改善に『全国学生調査』をどう活かすか」』	

1. 著者名 劉 文君	4. 発行年 2021年
2. 出版社 高等教育出版社	5. 総ページ数 459
3. 書名 「日本大学教学治理与院校研究（IR）的政策及現状分析」中国高等教育学会編『中国特色高等教育体系建設大家談』	

1. 著者名 金子 元久著 劉 文君（他）訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北京理工大学出版社	5. 総ページ数 197
3. 書名 大学教育的構建	

1. 著者名 劉文君他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中国理工大学	5. 総ページ数 238
3. 書名 高等教育の再構築（訳書）	

1. 著者名 東洋大学IR室	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋大学	5. 総ページ数 57
3. 書名 東洋大学IRシンポジウム報告書 「学生の自律的な学修時間をどう増やすか」	

1. 著者名 東洋大学IR室	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋大学	5. 総ページ数 34
3. 書名 国際高等教育研究ワークショップ報告書「大学教育の質的向上」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際研究集会 国際ワークショップ「高等教育研究と大学マネジメント」を開催、筑波大学特命教授金子 元久（基調講演）、蘭州大学教育研究院副院長・教授盧彩晨（事例報告）をお招き、 日時：2024年3月21日11:00-13:00 場所：東洋大学白山キャンパス 8号館8502教室）</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際ワークショップ「高等教育研究と大学マネジメント」	開催年 2024年～2024年
--------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------